

まちづくり瓦版

～うつくしま、まちづくり推進レポート～

Vol.81 令和4年11月14日発行

ふくしまインフラツーリズム

第2回モニターツアー

福島県では、本年度当初予算の重点事業として「ふくしまインフラツーリズム推進事業」をスタートしました。

今年度は福島市西部地域を中心として、モニターツアーを3回実施し、モデルコースの造成とポータルサイトの立ち上げを計画しています。

今回は、東京2020オリンピックの予選が開催された県営あづま球場、土木遺産である荒川砂防堰堤などを巡る第2回目のモニターツアーを実施しました。

【実施日】

令和4年10月22日（土）～23日（日）

【場 所】

福島市西部地域

【内 容】

一日目は、県営あづま球場のバックヤードを見学し、午後から、荒川周辺の見所の紹介や歴史を学び土湯温泉に宿泊。

二日目は、吾妻山麓醸造所で、オリジナルラベルづくり体験し、桜水駅・福島交通車両基地では、車両基地見学と運転体験をしていただきました。

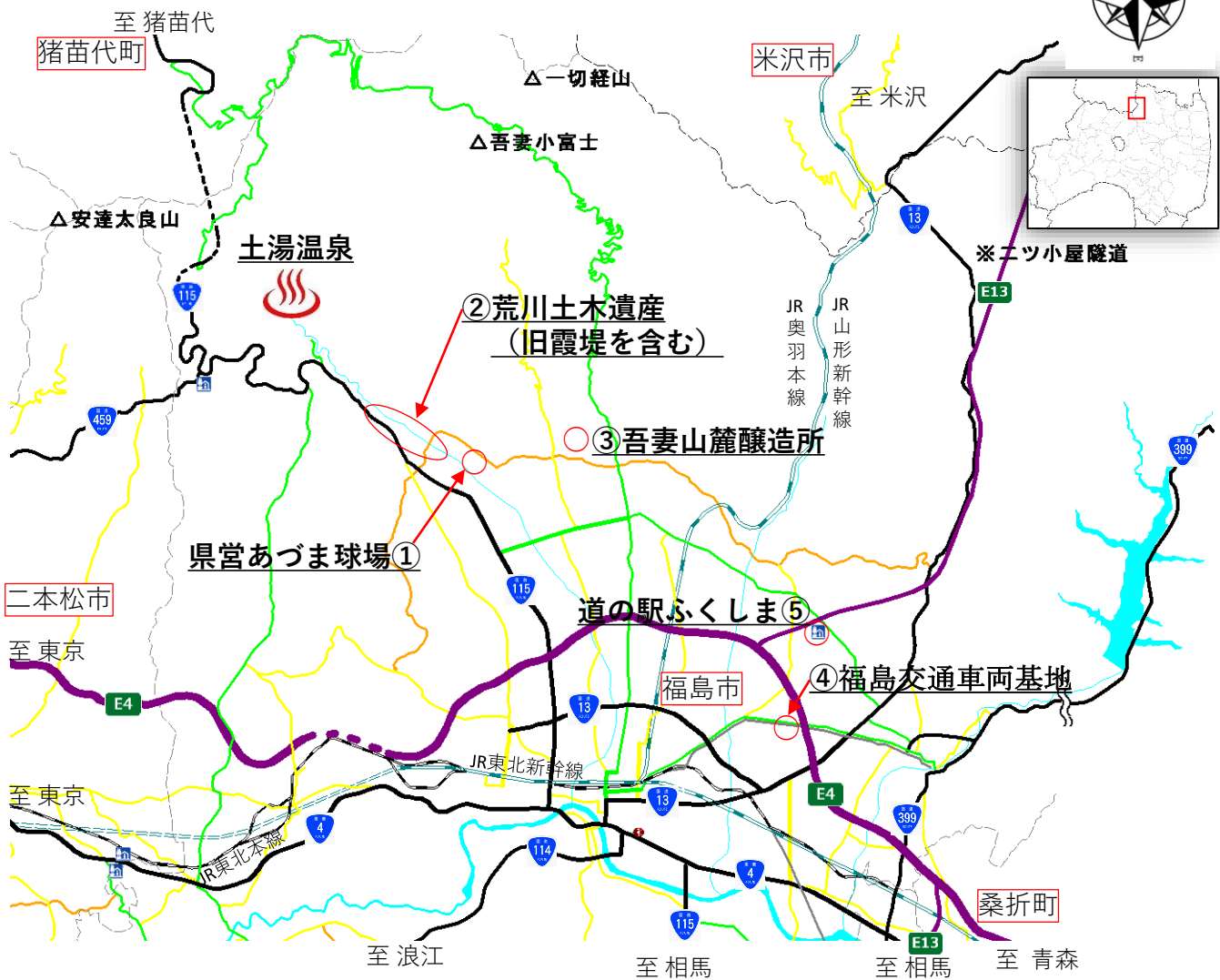
モニターツアーでは施設見学や体験、日程、費用等についてアンケートを行い、その結果をもとに分析して、今後の事業の取組に役立てます。

【参加者】

県内外の小学生から50代までの13名（内お子様3名）

（男性7名、女性6名）

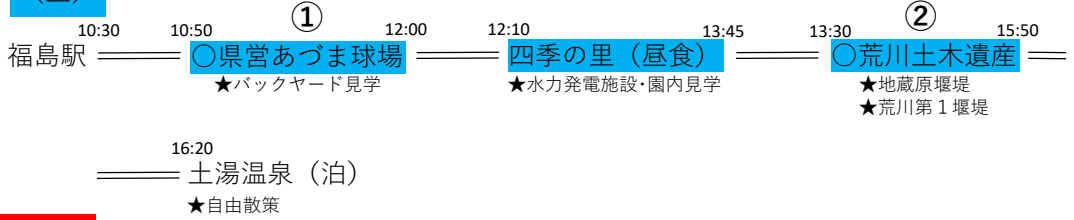
（県のホームページ、JTBのメルマガにより募集しました。）



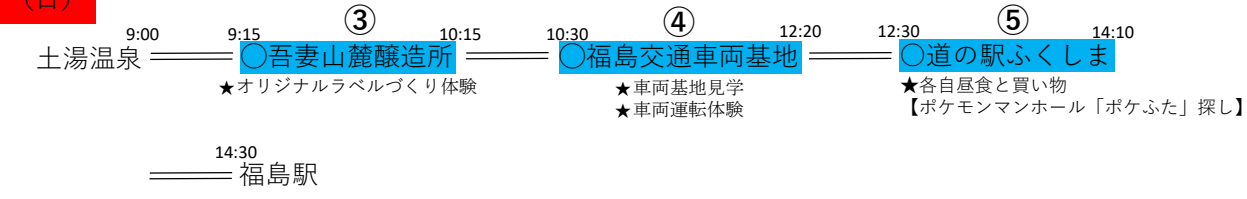
- 調査箇所
- 凡例
- 自動車専用道路
 - 一般国道
 - 主要地方道
 - 一般県道
 - 広域農道

旅程表

10/22 (土)



10/23 (日)



凡例：—— 貸切バス 観光施設：◎入場観光、○下車観光、△車窓観光

① 県営あづま球場（バックヤード見学）

東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて、県営あづま球場が、野球・ソフトボールの競技会場として使用されました。

今回のツアーでは、第33回秋季県北支部高等学校野球選手権大会が開催されているなか、関係者の皆様のご協力のもと、バックヤードを見学させていただきました。

普段なら立ち入ることが出来ない、スコアボードの上では、驚喜の目で試合を眺めていました。



◀大会関係者以外立ち入り禁止のなか、球場を見学させていただきました。

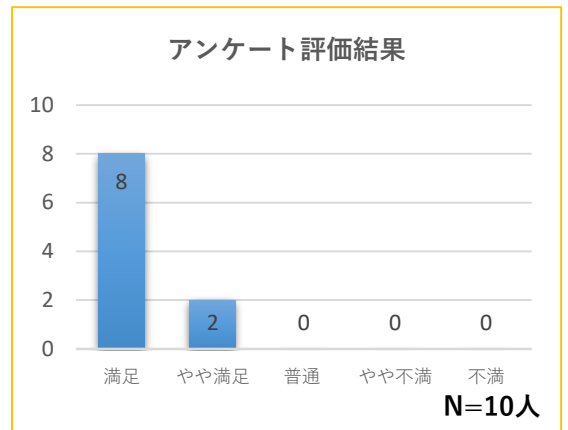
▶スコアボードの上から試合を観戦しました。



◀東京2020オリンピック当時の球場のパネルをバックにパチリ。

👉 アンケート結果 👈

- ・ 普段入れないバックヤード設備を見学できて新鮮な体験ができた。
- ・ 芝が特殊で興味深かった。スコアボードの上に上がれて貴重な体験ができた。
- ・ オリンピックに使った球場と知って驚きました。
- ・ 球場施設の裏側を回るめったにない機会であったり、最後にレアなお土産もあったため。強いていえば、球場内等も入れればなおよかったです。



② 荒川土木遺産（旧霞堤を含む）

荒川は、奥羽山脈が水源。丘陵地、小河川と合流しながら福島市街地の南側で阿武隈川に合流します。この間、流域には35基の砂防堰堤が築造されています。古くは明治33年に福島県が事業に着手し、昭和11年からは荒川第1砂防堰堤の国による整備が始まりました。

歴史的な建造物の多くは、有形文化財・選奨土木遺産に指定されています。

このように土木遺産が多い荒川は市民が交流する場でもあり、荒川を周遊できる散策路と土木施設への案内板も整備されています。



◀ エールのロケ地となった水防林を散策しながら。



▶ 旧霞堤を前に水防林や霞堤がつくられた荒川の歴史を学びました。

▶荒川の治水事業の始まりとなった、地蔵原堰堤をバックに記念撮影。



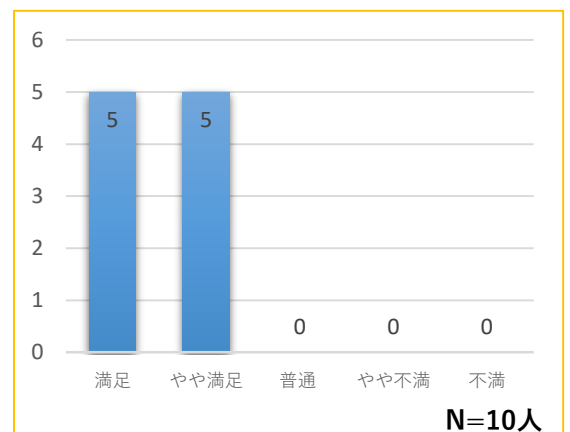
◀荒川第一堰堤では、最初の砂防堰堤建設の経緯を学びました。

▶迫力のある荒川大暗渠砂防堰堤を眺めながら造られた目的を知りました。



📄 アンケート結果 📄

- ・個人観光では普通に川がある程度で終わってしまいが、歴史などを聞いて見たので重要性を知る事が出来た。
- ・連ドラの小川が流れる林も大変美しかったです。あのサイズの岩が流れてきていたかと思うとびっくりです。
- ・もう少し知識があったらもっと楽しめたかも。難しい言葉もあったので、事前に資料など(QRコード)があったらもっと良かったかなと思います。



③吾妻山麓醸造所（オリジナルラベルづくり体験）

吾妻山麓醸造所は吾妻山麓の扇状地にあり、サワガニが棲むほどの美しい清流が湧き出ています。

醸造所のシンボルマークにある吾妻小富士を背に、福島市内を一望できる素晴らしい景観が広がる場所です。



◀思い思いのデザインを考え、楽しくラベルづくりを体験しました。

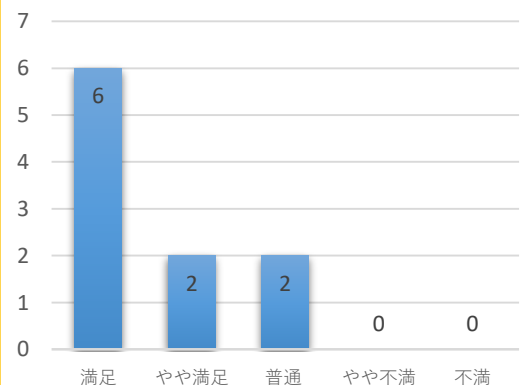


▲ 完成したオリジナルラベル ▲

📄 アンケート結果 📄

- ・自分が描いた絵がラベルになるなんて、とっても楽しかったです。
- ・オンリーワンの記念でラベル作り楽しいですね！
- ・ラベル作りだけでなく、醸造の仕組みやワインの種類について話が聞ければよかった。
- ・ラベル作りで訪問だったので詳しい話が聞けなかったのが残念だった。

アンケート評価結果



N=10人

④福島交通車両基地（桜水駅）

平成29年春から飯坂線に新しく導入された1000系電車は、もともとは東急東横線と東京メトロ日比谷線で運用されていた車両です。

運転台は、マスコンとブレーキを一体化したワンハンドルマスコン仕様になっています。

▶車内のバリアフリー対応や飯坂温泉の四季をイメージしたももりんのイラストラッピングが施されていて、優しさ楽しさあふれる電車です。



◀実際の車両により、車両構造等の説明を受けました。

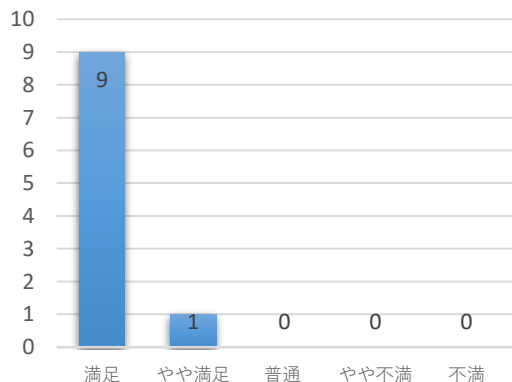
▶実際の車両で運転体験をしました。



📄 アンケート結果 📄

- ・実際に営業車両の運転を体験できるツアーは聞いたことがないので貴重な体験に満足した。
- ・今まで知らなかった電車の仕組みが知れてよかった。
- ・現役車両を試運転できるとあってこの年でこんなに興奮することがあるのかと上気しました。
- ・運転もできて車輛も見れたので。

アンケート評価結果



N=10人

⑥道の駅ふくしま（「ポケふた」探し）

道の駅ふくしまは、東北中央自動車道「福島大笹生IC」隣接地に、令和4年4月にオープンした道の駅です。

吾妻連峰を見渡す最高のロケーションに位置し、ここでしか味わえない地元のグルメや産品が豊富にそろい、「屋内子ども遊び場」や、「ドッグラン」を備え、大人も子どもも、愛犬も楽しめる道の駅です。

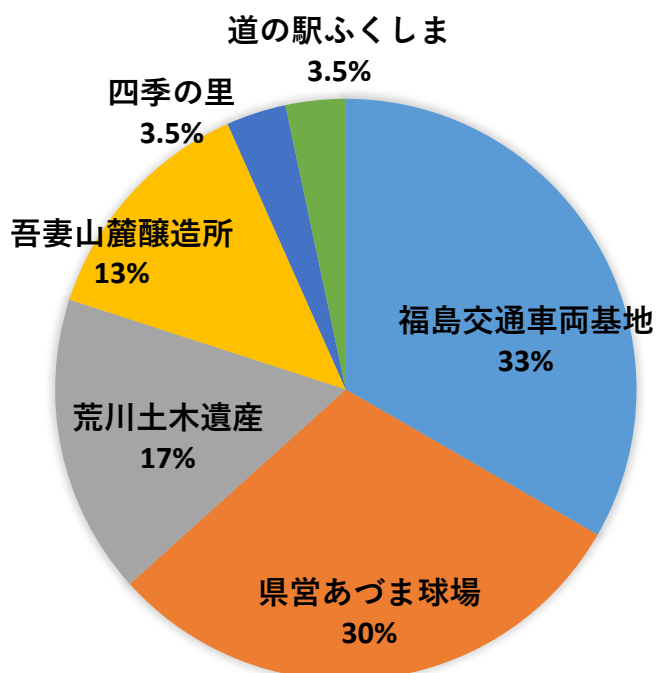
また、防災倉庫や耐震性貯水槽、太陽光発電を完備しており、バイオマス発電による電力を使用するなど、防災面を意識した環境にも優しい道の駅です。

ここでは、参加者が各自昼食を取って、「ポケふた」を探して記念撮影したり、お土産品を買うなどして集合時間までゆっくり過ごしていました。



※インフラコンテンツ満足度

“アクティビティ要素”として車両運転体験“福島ならではの”の県営あづま球場“特別感”車両運転体験や県営あづま球場にインフラコンテンツに魅力を感じ、満足度が高い傾向にありました。



📧 編集後記 📧

今回のモニターツアーでは、土木遺産の歴史や造られた目的など、インフラ施設を観光資源として、車両基地で電車の仕組み等を学び、実際に使われてる車両を運転するなど様々な年齢層でも楽しめたツアーになりました。

また、アンケート結果からインフラ施設を見るだけではなく、ここでしかできない体験をすることが重要だと分かりました。引き続き、県内におけるインフラ施設を観光資源として活用し、インフラツーリズムの推進に取り組んでまいります。

土木部メールマガジン登録随時受付中!!

土木部メールマガジンでは、土木部の取組みや情報を定期的に発信しています。最新号のメール配信を希望の方は、下記により登録をお願いします。

これまでに配信したメールマガジンについては、土木企画課のホームページ（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/doboku-mm.html>）からご覧いただけます。

メールマガジン（無料）の配信をご希望される方は



【土木部メルマガ希望または、解除】
をお書きのうえ下記アドレスまで
メール送信してください。

doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp

土木企画課（システム担当） 024-521-7886

【まちづくり瓦版 発行元】
福島県土木部まちづくり推進課

TEL 024-521-7511

FAX 024-521-7956

e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>